

覆水をどう盆に返すか一階層的な
自然再生の**ランドデザイン**ー

森本幸裕（京都大学）



協働に基づく自然林再生と順応的
管理ー「徳島県高丸山**千年の森**」
における取り組みー

鎌田磨人（徳島大学）

トキは朱鷺ー佐渡発の自然再生を
めざしてー

箕口秀夫（新潟大学）



日本景観生態学会公開シンポジウム

自然再生から考える生物 多様性と地域の課題

6月27日（土）**15:15～18:00**

会場 新潟大学五十嵐キャンパス 法学部・経済学部校舎 A160教室(E棟1階)

参加費 無料（事前登録にご協力下さい）

主催 日本景観生態学会新潟大会実行委員会

共催 新潟大学超域研究機構

事務局 村上 拓彦（新潟大学農学部） Tel 025-262-6627

講師紹介

森本 幸裕（モリモト ユキヒロ）

覆水をどう盆に返すかー階層的な自然再生のランドデザインー

この百年に失われた生物多様性を百年かけて再生すると宣言した第3次生物多様性国家戦略の閣議決定にも関わらず、生物多様性の劣化は止まらない。だが百年に一度という未曾有の経済危機は社会構造を持続可能な自然共生型へ転換するチャンスでもある。そのためには、生態系サービス評価に基づき臨界自然資本を識別して目標とすべきランドデザインを共有し、現場の技術開発から景観レベル、国土計画まで階層的な取組みが望まれる。

1948年大阪府生まれ 農学博士

京都造形芸術大学教授、大阪府立大学教授を経て、京都大学大学院教授
日本景観生態学会会長、ICLEE(国際景観生態工学コンソーシアム) 副会長

鎌田 磨人（カマダ マヒト）

協働に基づく自然林再生と順応的管理ー「徳島県高丸山千年の森」における取り組みー

徳島県上勝町高丸山周辺の伐採跡地では、「かみかつ里山倶楽部」を核として、地域住民、ボランティアグループ、研究機関、大学、徳島県等の協働によって自然林再生が行われている。今回、再生目標の設定手法や、実施段階における目標とのズレを検出するためのモニタリング調査、ずれを修正していくための意思決定のあり方などを紹介し、順応的管理に向けた協働のあり方について検討したい。

1961年徳島県生まれ 学術博士

徳島県立博物館学芸員、徳島大学工学部助教授を経て、徳島大学大学院教授
日本景観生態学会幹事長

箕口 秀夫（ミグチ ヒデオ）

トキは朱鷺ー佐渡発の自然再生をめざしてー

昨年9月25日、27年ぶりに佐渡の空に10羽のトキが舞い、トキの野生復帰が新たな一步を踏み出した。放鳥されたトキの行動は私たちに多くの貴重な知見をもたらした。なかでも、11月に雌1羽が本州で確認され、その後も3羽の雌が相次いで本州に渡ったことは、トキの野生復帰がめざすものについて新たな議論を巻き起こした。そこで、放鳥されたトキの行動をめぐる垣間見えてきた、自然再生に取り組む上での課題について考える。

1959年長野県生まれ 博士(学術)

新潟県、新潟大学農学部助教授を経て、新潟大学自然科学系教授
新潟大学超域朱鷺プロジェクト担当

事前登録のお願い

参加をご希望の方は事前登録にご協力下さい。
(事前に参加者数を把握しておきたいためです。)
もちろん、事前登録なしの参加も大歓迎です。

メールアドレス

jale2009@agr.niigata-u.ac.jp

メールタイトル

0627公開シンポ

メール本文に氏名、所属のみを記載して送信して下さい